

悠久の歴史を刻む(江戸時代)



祐徳稲荷神社

祐徳稲荷神社は、鹿島藩3代藩主鍋島直朝の後室「萬子(まんこ)」に由来する神社です。晩年出家した萬子は、1685(貞享2)年古枝の普明寺の末寺として、この地に石壁山祐徳院を建て入寺しました。その時に京都から嫁入りの時に持ってきた稲荷大神を同時に祀りました。萬子は1705(宝永2)年この地で亡くなりますが、その後萬子のおくり名から祐徳稲荷神社と呼ばれるようになりました。

普明寺

普明寺は黄檗宗(おうばくしゅう)の寺院で鹿島鍋島家の菩提寺です。3代藩主鍋島直朝の長男、直孝は早くから出家していましたが、黄檗宗に深く帰依し、黄檗宗を日本に伝えた隠元の孫弟子である能古見福源寺の住職「桂巖(けいがん)」を迎え、自分の住居があった場所に、普明寺を開山しました。寺域には中国の影響を受けた山門や本堂が建ち、墓所には直朝から現在までの鹿島鍋島家の墓石が立ち並びます。



泰智寺

鹿島藩初代藩主鍋島忠茂が先に亡くなった夫人の霊を弔うため1623(元和9)年に建てました。1650(慶安3)年浜町に大火があり、寺門を残してことごとく焼失し、1743(寛保3)年6代藩主直郷の代に再建されました。当時、藩の財政が苦しかったため、本堂は一部古材を使った仮本堂だということですが、火災を免れた楼門は堅固で雄大なつくりです。

香取市との交流

千葉県香取市には、かつて鹿島鍋島家の領地があり、上小川の円通寺には、初代藩主鍋島忠茂の墓所も残っています。このような縁から交流がなされてきましたが、平成24年「伊能忠敬※来鹿200年記念事業」の際、伊能忠敬の旧宅が香取市にあることからさらに交流が深まり、同年『ふるさとの自然、歴史、文化を活かしたまちづくり連携に関する協定』が締結されました。両市は、重要伝統的建造物群保存地区があるなど、共通したところが多く、今後はまちづくりや産業の交流など連携して推進していく予定です。

※日本で初めて正確な日本地図を作製した人物。平成24年は、伊能忠敬が測量のために鹿島を訪れてから200年の記念にあたり様々なイベントが行われました。



円通寺(香取市)